

障害のある子どもの親の学校つきそいの強制をなくそう！全国キャンペーン

第1回実行委員会を開催しました！

「障害のある子どもの親の学校つきそいの強制をなくそう！全国キャンペーン」（通称：つきそいなくそうキャンペーン）の第1回実行委員会を6月28日に開催しました。現在つきそいを強制されている保護者さん、つきそいをなくす取り組みをされている方、昔つきそっていたがとりやめさせた保護者さんなど、関東を中心に14名の参加者があり、活発な意見交換ができました。

議論の結果、下記事項を学校教育行政に働きかけていくこととなりました。

【要望事項】

- ① 保護者のつきそいの強制をなくすこと
- ② 保護者のつきそいなく子どもが学校生活を送れるようにすること
- ③ 文部科学省は、保護者のつきそいの全国調査を実施すること
- ④ 文部科学省は、障害者差別解消法の対応要項で保護者のつきそいなく学校生活をおくれるようにすること

I キャンペーンのお考え方

● 「保護者のつきそい」に関しては、今までも多くの方が取り組みをしており、付き添いをなくしたり、介助員等の予算をつけるなどの一定の成果が出ています。その一方で、付き添いを求められる実態は全国にひろがっています。このキャンペーンは、今までの取り組みをもとに、障害者権利条約の批准を契機に、綿々と続いているつきそい強制を断ち切るべく全国的な行動を展開するものであり、実行委員会を作って取り組みます。

● キャンペーンの名前に「強制」をいれるかどうか議論になりました。つきそっているが「強制」されたからではなく「協力」を求められたからだという考え方もあります。これについては、強制された、強制されていない云々ではなく、障害児の保護者だけがつきそいを求められることは、障害者権利条約の云う“障害による異別取り扱い”であり“差別”であること。それを確認する意味でも「強制」を入れることになりました。

● そして、最も大事なことですが、つきそいの強制をなくすよう求めるのは、支援員や介助員を求めることとイコールではないことが議論の中でしっかりと確認されま

した。つきそいがなくても子どもたちが生活できるような学校を創ること、これが私たちが求めることです。

Ⅱ まず、この時期の取り組みとして（第一弾）

キャンペーンの取り組みとして、何をどこに働きかけていくか、適切な時期に効果的な方法をとっていくことが重要だと確認しました。地方分権の状況も踏まえ、地方自治体への働きかけ、文部科学省や内閣府への働きかけ、議員へのロビー活動等を考えています。そこで、今の時期の取り組みとして、以下の二つのことをしていきます。皆様のご協力をお願いします。

つきそい事例募集!

各関係機関への働きかけをするために、つきそいの事例を集めたいと思います。（今後、実態調査としてアンケート調査も予定しています。）以下の要領で下記連絡先まで事例を送ってください。【第一次締切 8月9日(土)】

【記載要領】

・A4一枚程度、・自由記述、・名前、市町村名、学年、在籍先（特別支援学校、特別支援学級、普通学級の別）。匿名希望でも結構です。過去のことでも歓迎します。何年ごろか時期を書いてください。※個人情報は公表しません。

賛同人、賛同団体募集!

キャンペーンに賛同してくれる人・団体を募集します。多くの方がこの運動を求めていることをアピールします。以下を下記連絡先までお寄せください。

【記載事項】 名前/団体名、連絡先住所、メールアドレス、公表の可否

連絡先： つきそいなくそう実行委員会

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-8-7 楽多ビル 3F

障害児を普通学校へ・全国連絡会事務局 Mail: info@zenkokuren.com

Tel:03-5313-7832 Fax:03-5313-8052

引きつづき実行委員募集中!

賛同人、賛同団体で実行委員になってくれる方を募集します。実行委員会はキャンペーンの行動について話し合う役割をします。会議に出席できなくとも、メーリングリスト等で意見交換できます。「実行委員になります」と書いて上記連絡先までご連絡ください。（7/4現在：20団体 16人が賛同し 14人が実行委員になっています。）

第2回実行委員会は8月10日です。
皆様の参加をお待ちしています!